

本島周辺離島地域



図 9 調査地域及び海岸 一本島周辺離島地域 伊平屋島一

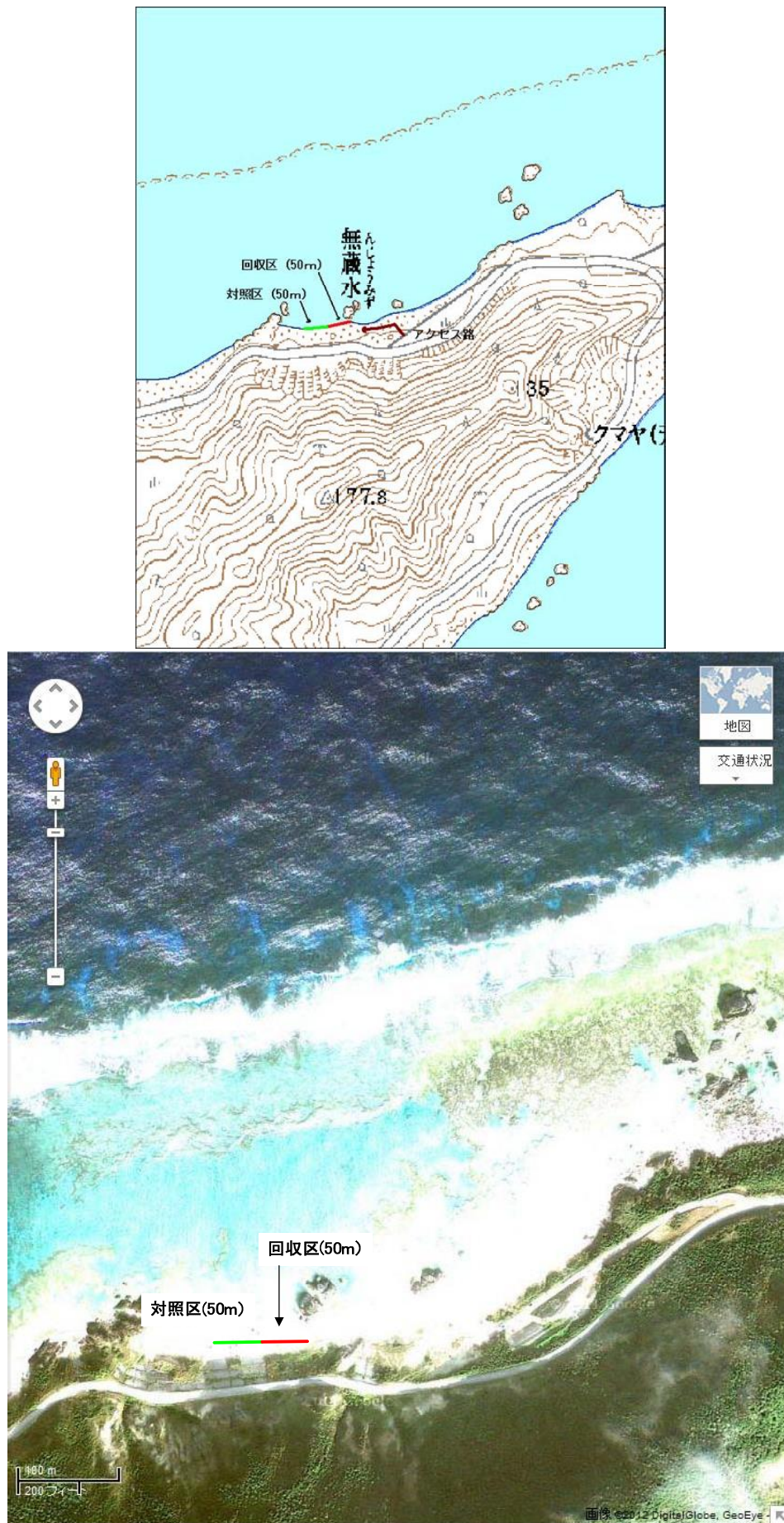


図 10 本島周辺離島地域（伊平屋島） 西クマヤ洞窟

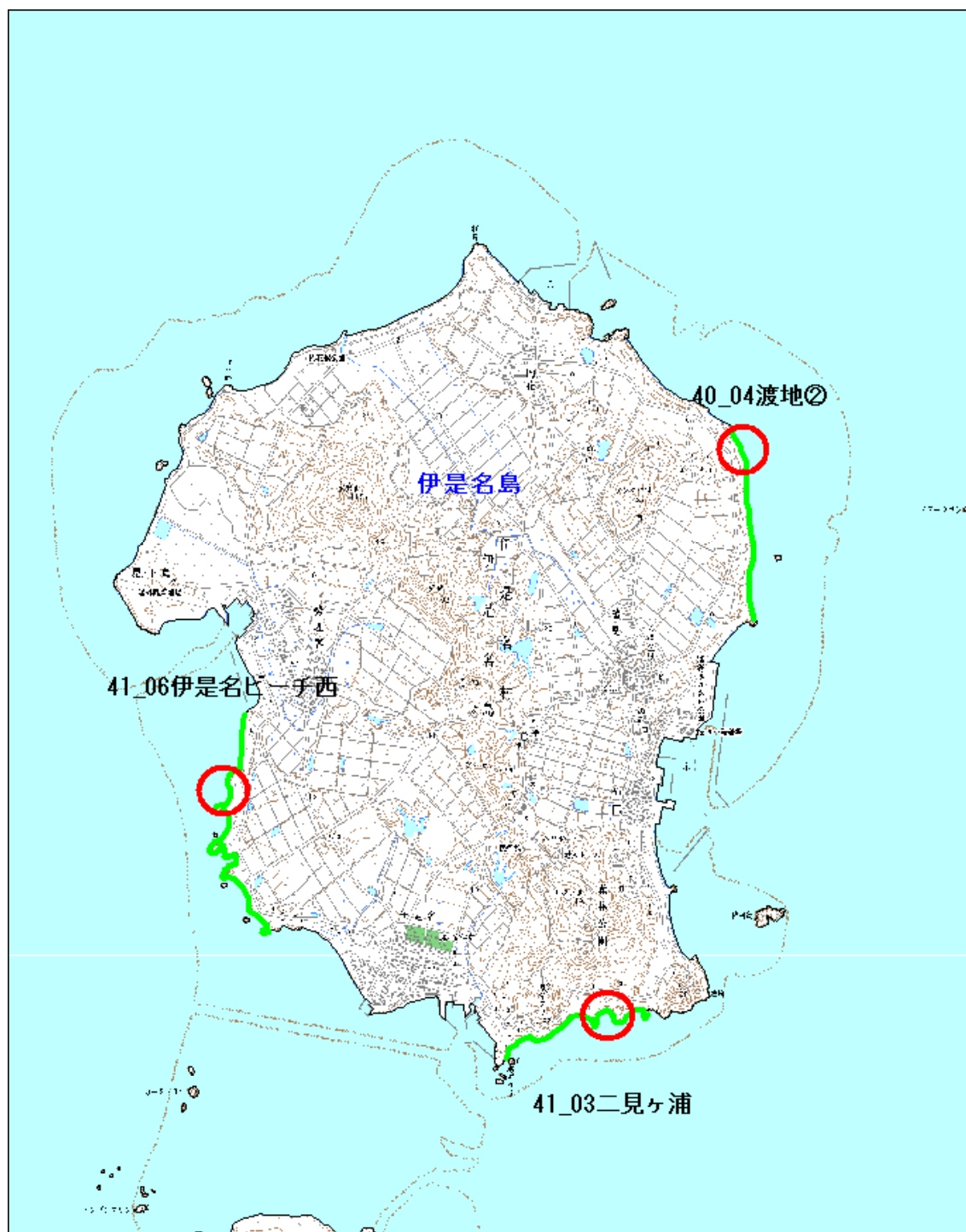


図 11 調査地域及び海岸 一本島周辺離島地域 伊是名島一

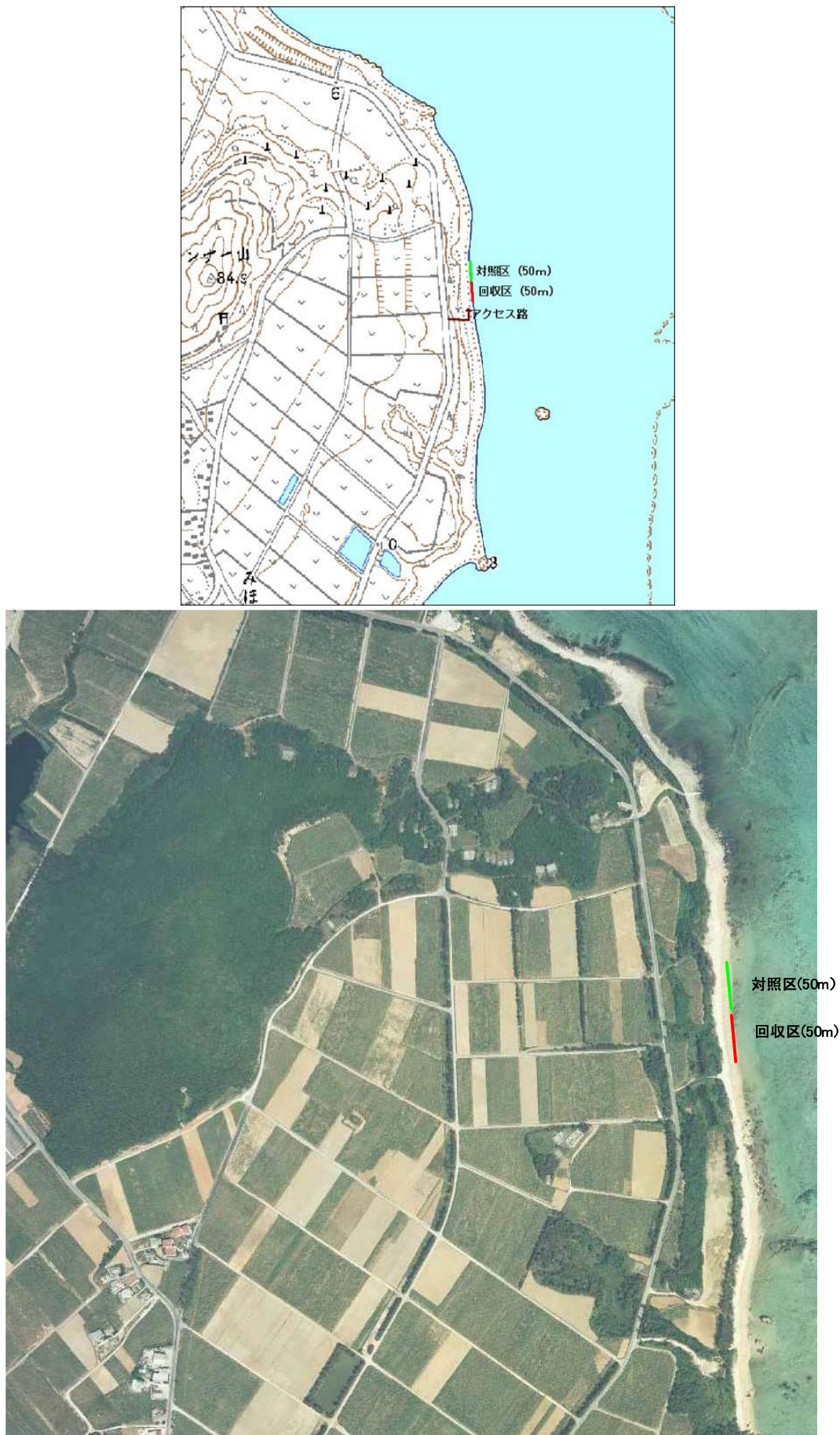


図 12 本島周辺離島地域（伊是名島） 渡地②



図 13 本島周辺離島地域（伊是名島） 二見ヶ浦



図 14 本島周辺離島地域（伊是名島） 伊是名ビーチ西

八重山諸島地域

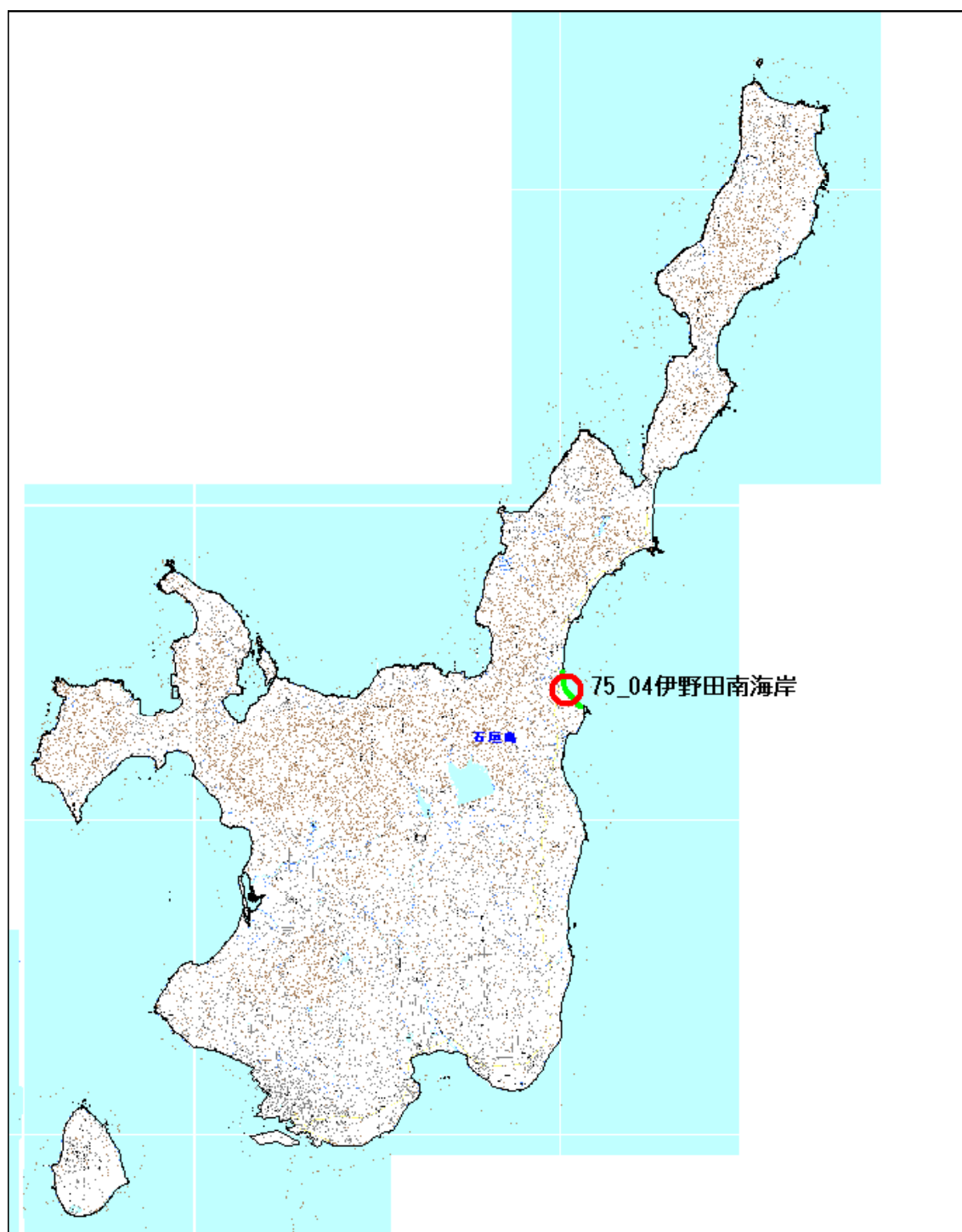


図 31 調査地域及び海岸 一八重山諸島地域 石垣島一

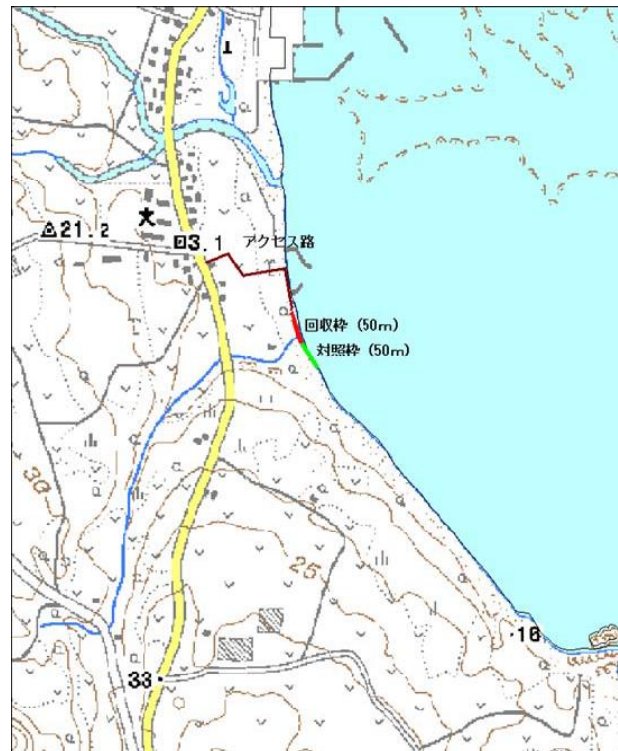


図 32 八重山諸島地域（石垣島） 伊野田海岸

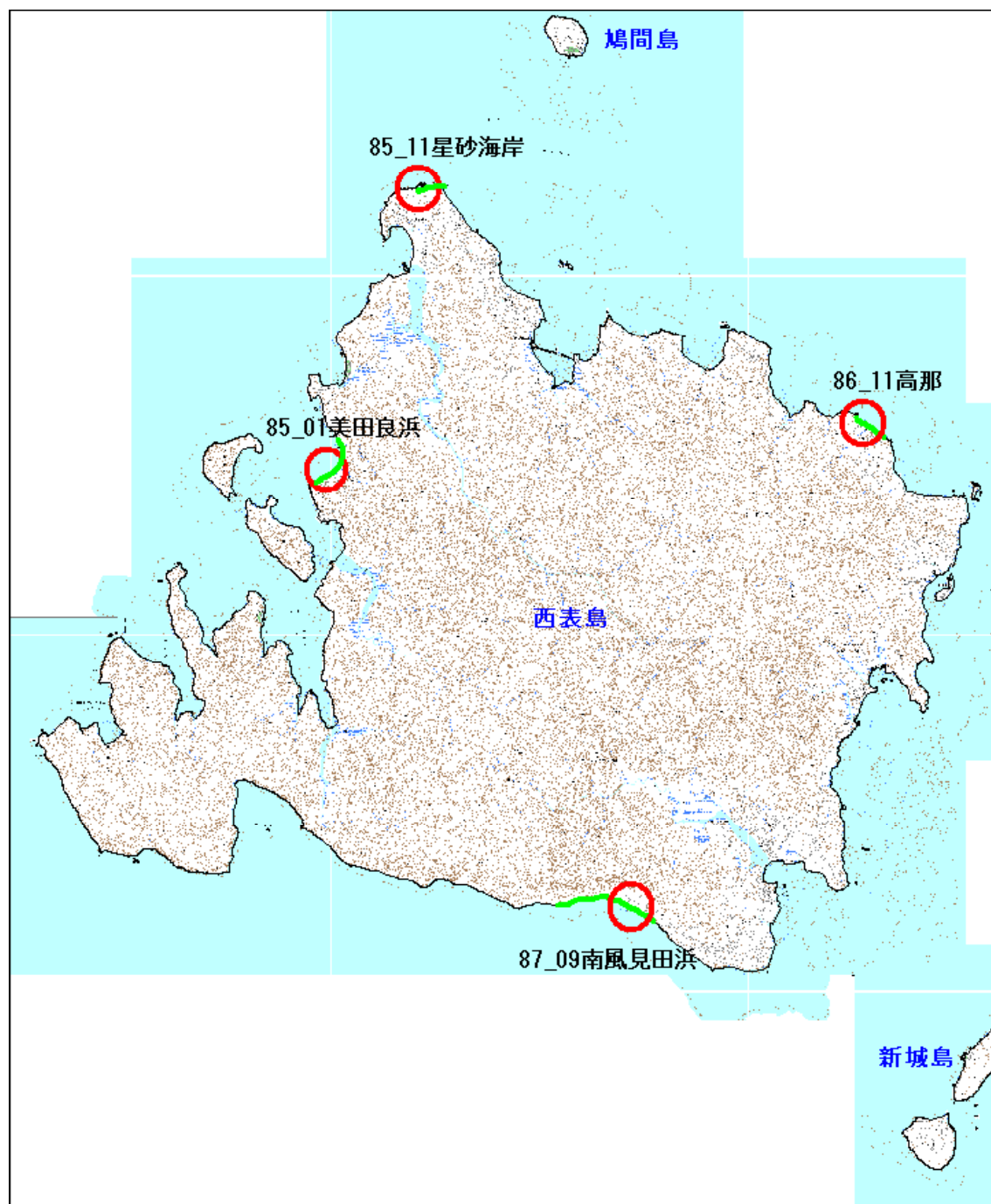
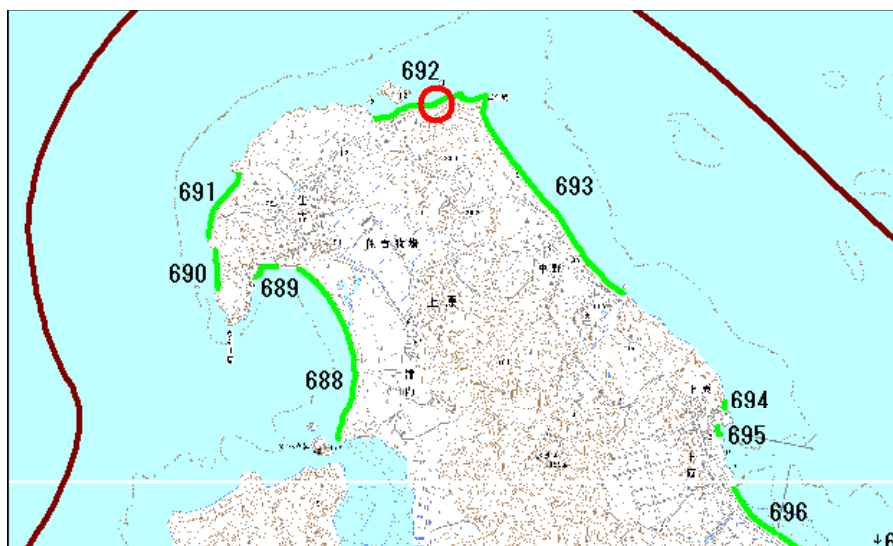


図 33 調査地域及び海岸 一八重山諸島地域 西表島一



692 赤丸部分

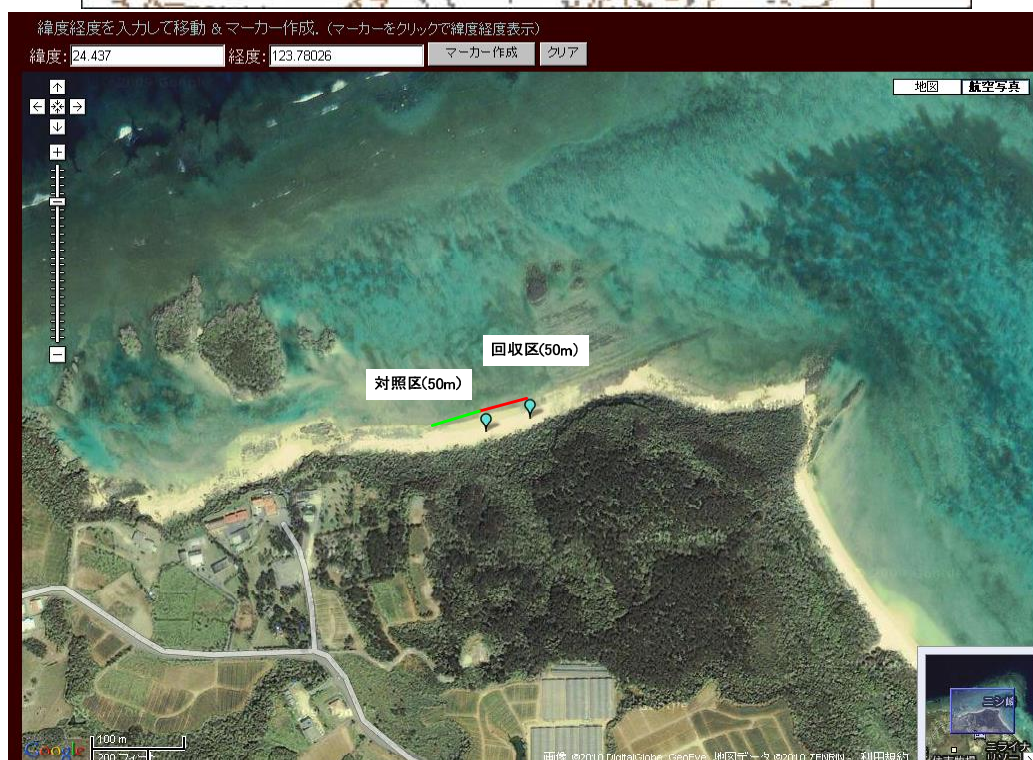
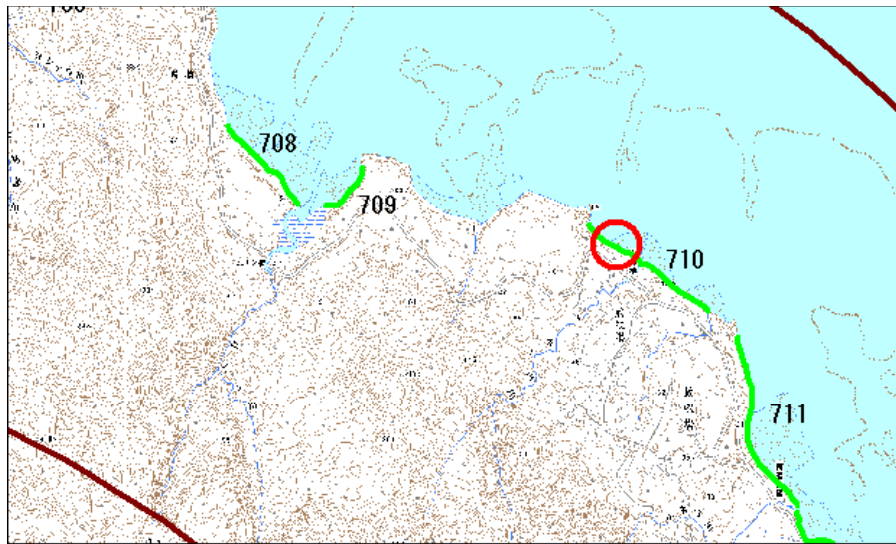


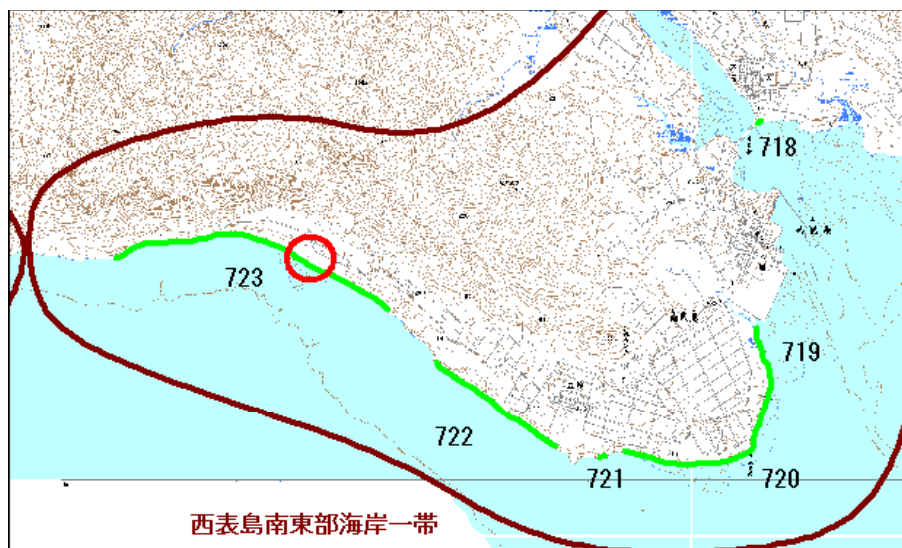
図 34 八重山諸島地域（西表島） 星砂海岸



710 赤丸部分



図 35 八重山諸島地域（西表島） 高那



723 赤丸部分

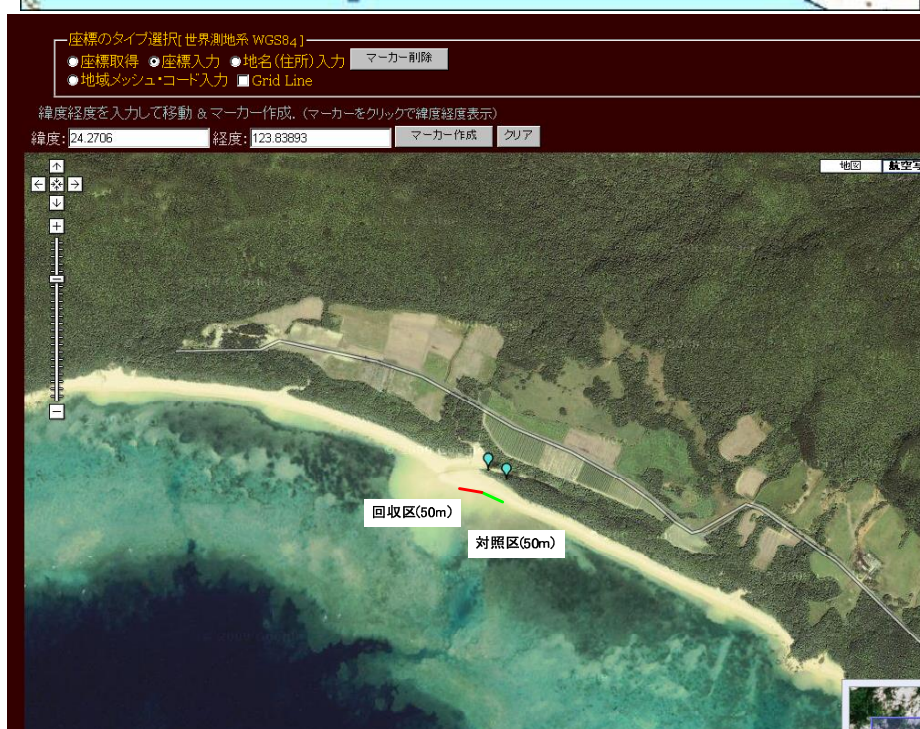
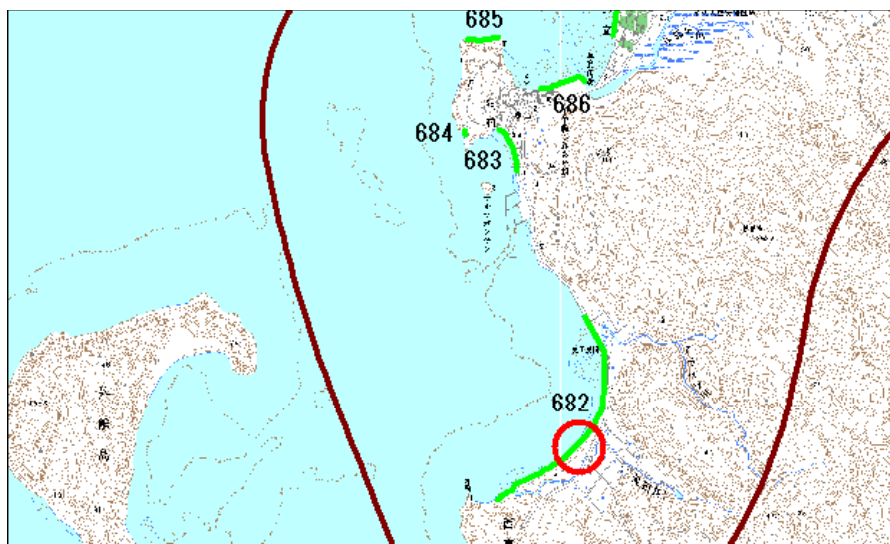


図 36 八重山諸島地域（西表島） 南風見田浜



682 赤丸部分

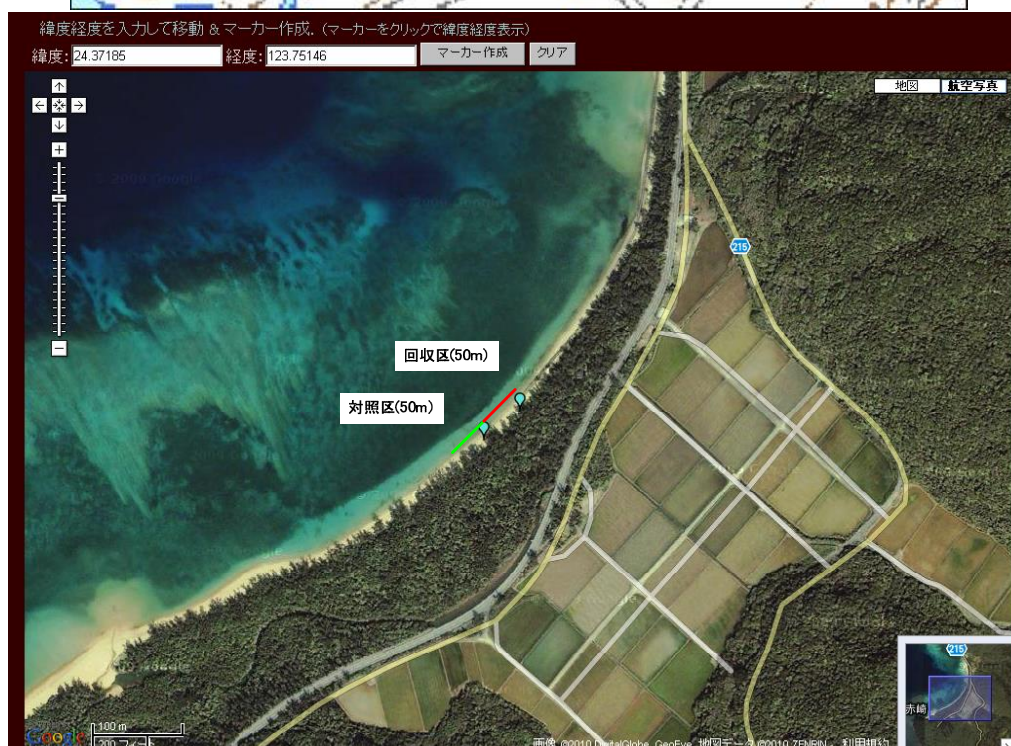


図 37 八重山諸島地域（西表島） 美田良浜

3.4 調査方法

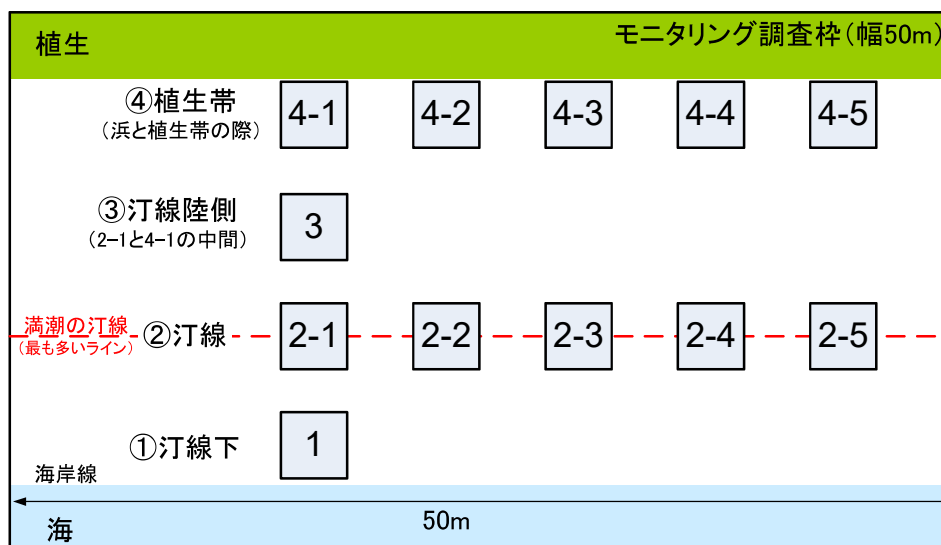
別添 5

3.4.1 マイクロプラスチックの回収

調査方法は、平成 28 年度沖縄県海岸漂着物等地域対策推進事業で検討されたマイクロプラスチック調査の方法に準じる。回収条件及び回収枠の設置模式図、回収枠設置例は表 3.4-1、図 3.4-1、図 3.4-2 のとおりである。回収枠の大きさは 1 m²当たりの個数に換算しやすい一辺 25 cm 枠内とし、回収枠内の表層砂を全て回収する。図 3.4-3 に表層砂の回収状況例を示す。

表 3.4-1 マイクロプラスチックの回収条件

回収条件	調査内容
回収枠	25 cm × 25 cm × 1 cm（深さ）
回収枠の位置及び枠数	海岸での回収枠の位置および枠数は、漂着物の多い場所（汀線）を基準として海陸方向に、①汀線より海側、②汀線付近、③汀線より陸側、④植生帯付近の 4 ヶ所とする。



簡易調査：2-1を汀線で最も多い点とし、1、2-1、3、4-1を採集する

詳細調査：2-1～2-5、4-1～4-5のそれぞれ5点は、最も多い点を選定する
（目視により最も多いと思われる5点を選定）

※試料数は、1海岸あたりマイクロプラスチックが12試料、ふるいに残ったマクロプラスチックが12試料となるため、合計24試料となる。

図 3.4-1 回収枠の設置模式図

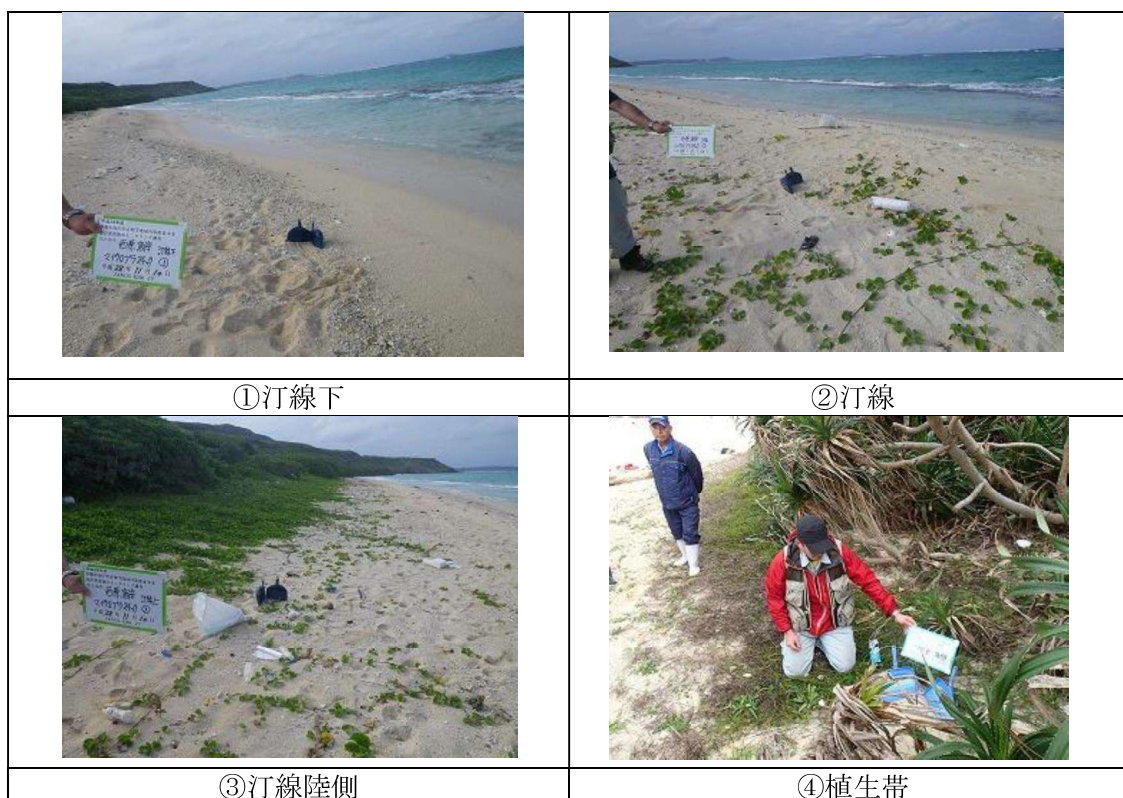


図 3. 4-2 回収枠設置例

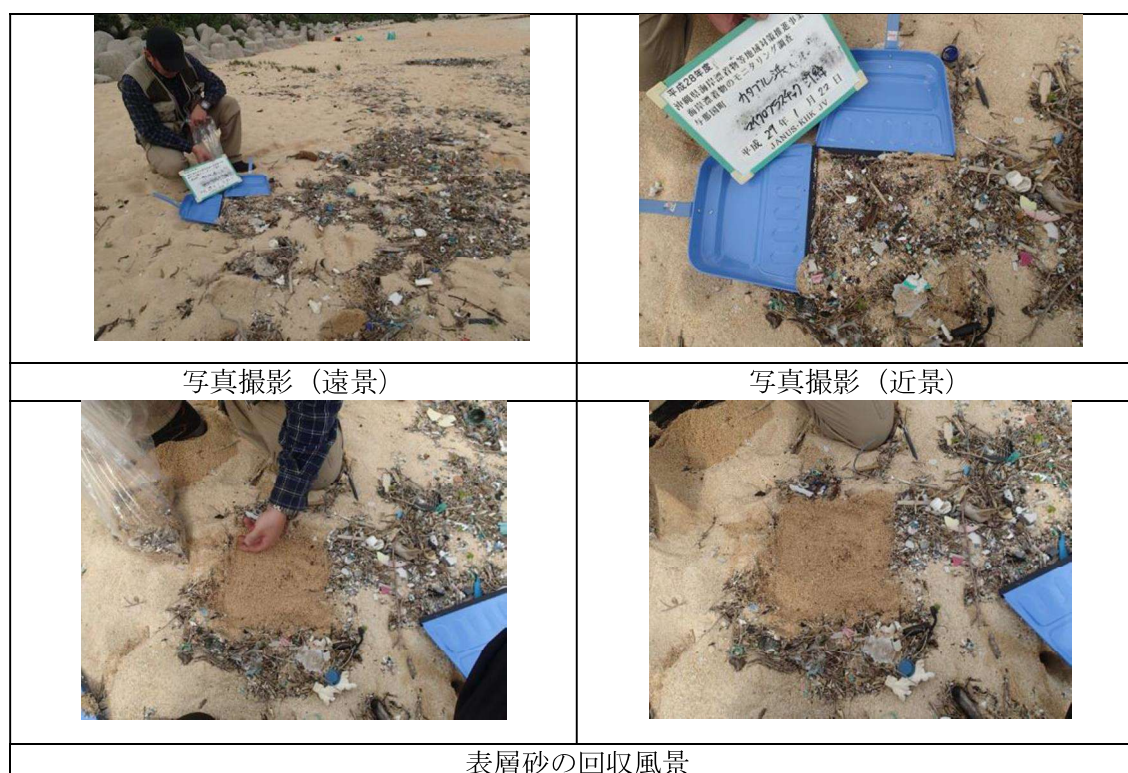


図 3. 4-3 回収状況例

3.4.2 マイクロプラスチックの分析（分別）

①で回収された試料は、フルイ及びネットを用い、5 mm以上と 5 mm以下の人工物に分別する。分別方法については、表 3.4-2 に詳細を記載する。フルイ及びネットによる分別作業状況を図 3.4-4、図 3.4-5 に示す。

表 3.4-2 人工物の分別方法

項目	分別方法
フルイによる分別作業	水を張ったバケツ（10 リットル容量程度）の上部で、5 mm目合のフルイに採取した表層砂をいれ、大きさ 5 mm未満のマイクロプラスチックと砂等をバケツ水中に落とし、フルイに残った 5 mm以上の人工物（マクロプラスチック）を、ピンセット等で密閉可能な保存容器（以下、保存容器とする）に収容する。
ネットによる分別作業	バケツ内の砂と水を静かに攪拌し、30 秒以上静置させたのち、バケツ表層に浮かんだ浮遊物を、観賞魚用のナイロン製ネットで捕集する。捕集されたマイクロプラスチックと軽石等は、ボール状の容器などに集める。これらの作業を 3 回繰り返し、ボール容器に集まったマイクロプラスチックや軽石等を、ナイロン製ネットあるいはアク取りで捕集し保存容器に収容する。



図 3.4-4 フルイによる分別作業



図 3.4-5 ネットによる分別作業

3.4.3 マイクロプラスチック分析（計測）

計測にあたっては、色は形状から判別が容易なものと、軽石や有機物の破片などの様に肉眼では判別が難しいものを分けて計測する。計測状況を図 3.4-6 に示す。フルイ及びネットによる分別の結果、5 mmより大きい人工物については、プラスチック片、発泡スチロール、その他の3項目に分類し、5 mmより小さいマイクロプラスチックについては、プラスチック片、発泡スチロール、レジンペレット、繊維状プラスチックの4項目に分類する。マイクロプラスチックのサンプリングシートを表 3.4-3 に示す。

計数はできるだけ明るい場所で実施し、原則として採取当日に計数を行う。当日の分析が難しい場合は冷凍保存し、容器に含まれる有機物が腐敗する前に計数する。

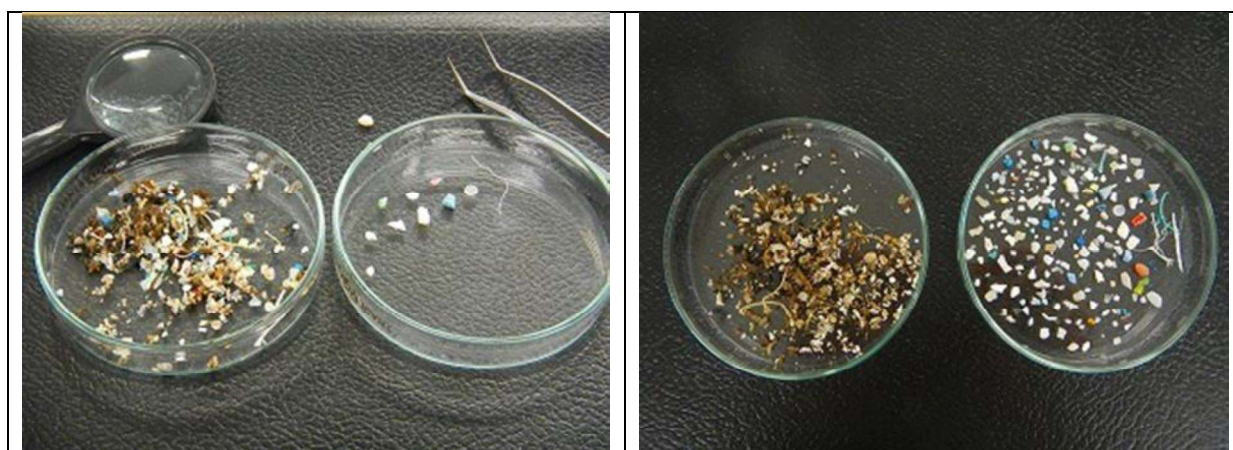


図 3.4-6 計測状況

表 3.4-3 マイクロプラスチックのサンプリングシート

モニタリング（マイクロプラスチック）サンプリングシート

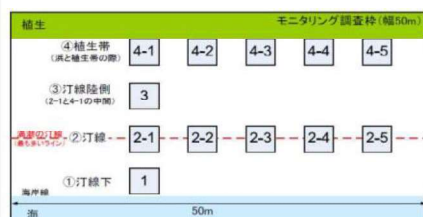
サンプリング海岸:

日付: 年 月 日

④植生帯（浜と植生帯の際） ※最も多い点		4-1	4-2	4-3	4-4	4-5
プラスチック片	☐	☐	☐	☐	☐	☐
発泡スチロール	☐	☐	☐	☐	☐	☐
レジンペレット	☐	☐	☐	☐	☐	☐
繊維	☐	☐	☐	☐	☐	☐
③汀線陸側（2-1と4-1の間）		3				
プラスチック片	☐					
発泡スチロール	☐					
レジンペレット	☐					
繊維	☐					
②汀線（満潮の汀線） ※最も多いライン、最も多い点		2-1	2-2	2-3	2-4	2-5
プラスチック片	☐	☐	☐	☐	☐	☐
発泡スチロール	☐	☐	☐	☐	☐	☐
レジンペレット	☐	☐	☐	☐	☐	☐
繊維	☐	☐	☐	☐	☐	☐
①汀線下		1				
プラスチック片	☐					
発泡スチロール	☐					
レジンペレット	☐					
繊維	☐					

計測の際は、付箋に日付と海岸名、
枠番号を記入して撮影する

付箋例) 12/19 西原海岸 2-1



簡易調査：2-1を汀線で最も多い点とし、
1、2-1、3、4-1を採集する

詳細調査：2-1～2-5、4-1～4-5のそれぞれ5点は、
最も多い点を選定する

（目視により最も多いと思われる5点を選定）

※試料数は、1海岸あたりマイクロプラスチックが12
試料、ふるいに残ったマクロプラスチックが12試料
となるため、合計24試料となる。